

「研究大学強化促進事業」中間評価 進捗状況概要 熊本大学

目的

- ①国際競争力のある研究の加速化とその成果の世界的発信、②先端的・先導的研究分野の創出、
③研究環境の国際標準化、④URA(研究マネジメント人材)の確保と研究力強化に係る支援活動の展開

これまでの実績・取組状況

国際共同研究拠点による研究推進

国際共同研究拠点を中心に国際共同研究の推進とネットワークの拡充・整備。

国際先端研究機構による世界に通じる研究環境整備

世界トップレベルの研究者の卓越教授としての雇用や客員教授としての招へい。テニユアトラック制のもとで外国人を含む若手研究者を確保・育成。オープンラボ、ジョイントラボを活用。

産学連携の強化

産学連携系URAによる知財創出や技術移転、共同・受託研究支援を強化。

URAによる研究支援

URAを研究系、産学連携系にそれぞれ配置し、キャリアパスを整備。外部資金獲得や知財管理、成果発信や大学の研究戦略策定を支援。

今後5年間の将来構想

- 世界レベルの研究拠点の形成と先端研究分野の開拓、若手研究者の育成を推進。
- 「熊本創生推進機構」において地場企業、県・市等との連携による組織対応型の共同研究を進め、その成果の社会実装を展開。社会貢献型・課題解決型の産学連携体制を構築し、地域に大きく貢献する大学へ。
- 多様な取組を支援するため、研究支援の実務から情報分析、大学戦略の企画運営まで幅広く活躍するURAを育成・活用。

取組の成果が結果に反映

	採択時	中間評価時
研究者当たりの科研費採択件数	0.43件	0.49件
科研費若手種目の新規採択率	34.5%	38.7%
Q値(被引用Top10%論文率)	7.6	8.4
国際共著論文率	22.2%	24.6%
民間企業からの共同研究等受入額	928,036千円	1,056,492千円
技術移転収入	31,012千円	59,066千円



※「アジアで最もイノベティブな大学ランキング 2017」(ロイター社発表)で、37位にランクイン(2016年では40位)。

研究環境の世界標準化

設備共用化、オープンラボ、海外ジョイントラボを活用

組織対応型

共同研究を促進

国際競争力強化

卓越した研究者の獲得・強み領域の先鋭化

URAの
育成・高度化

社会貢献型・課題解決型
産学連携体制の構築

インスティテューショナル・リサーチ
(IR)の強化

さらなる取組で

「くまもとから世界に輝く研究拠点大学」へ

中間評価結果

評点区分: A

全体に対する所見

学内研究特区制度を含め、意欲的に研究力強化に取り組んでおり、URA 制度を整備し、キャリアパスの構築に係る人事制度の整備も進められている。一方で、今後の構想については、人文社会系の活用も含めた「地域起点」という視点が具体化できる構想が期待される。

当初構想・計画の進捗状況に対する所見

当初の目標に対する進捗状況が適切に把握され、組織再編による業務効率化に取り組むなど、研究力強化のための強力な体制が構築されつつある。制度改革も含めた新たな取組への挑戦は評価できる。

今後5年間の将来構想に対する所見

これまでの実績を踏まえ、継続可能な将来構想が計画されているが、研究・アウトリーチ戦略を具体化するなど、全学的な方向性を明確にすることが必要と考えられる。